

糸魚川市公共施設等総合管理指針

個別計画

分類：博物館等

- | | | |
|----|----------------------|------------|
| 第1 | 博物館等（フォッサマグナミュージアム等） | 1P（文化振興課） |
| 第2 | 博物館等（越山丸、マリンミュージアム） | 19P（能生事務所） |

平成31年2月 策定

令和5年3月 改訂

令和6年3月 改訂

第1 博物館等（フォッサマグナミュージアム等）

1 施設一覧

(1) 施設総括表（令和5年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
ア	フォッサマグナミュージアム	1		1			
イ	長者ケ原考古館	1		1			
ウ	遺跡公園	2		1	1		
エ	史跡相馬御風宅	1					1
オ	歴史民俗資料館	2				2	
カ	塩の道関連施設	3		3			
キ	硬玉産地	2					2
ク	おくのほそ道の風景地親しらず	1		1			
ケ	フォッサマグナパーク	1		1			
	計	14		8	1	2	3

(2) 施設の詳細（令和5年4月1日現在）

① 建物

面積単位：㎡

施設名称	代表所在地	建築年	延床面積	構造	階層	
ア	フォッサマグナミュージアム	一ノ宮 1313	1994 平 6	2,724.04	RC造一部S造	1
イ	長者ケ原考古館	一ノ宮 1383	1994 平 6	380.91	木造一部RC造	地上1 地下1
エ	史跡相馬御風宅	大町 2-10-1	1928 昭 3	330.91	木造	2
オ1	糸魚川歴史民俗資料館	一の宮 1-2-2	1977 昭 52	651.5	RC造	地上2 地下1
オ2	能生歴史民俗資料館	能生 7471	1980 昭 55	165.52	木造	3
カ1	塩の道白池便所、休憩棟	山口字白池	便所棟 1995 平 7 休憩棟 1996 平 8	便所棟 12.9 休憩棟 19.87	木造	1
カ2	塩の道山口便所	山口	1997 平 9	21.6	木造	1
カ3	塩の道大野便所、休憩棟	大野	1998 平 10	便所棟 23.27 休憩棟 16.52	木造	1

※ RC造：鉄筋コンクリート造 S造：鉄骨造

② 国指定史跡・天然記念物・名勝関係

名称		代表所在地	設置年	土地筆数	土地面積 m ²	備考
ウ1	長者ヶ原遺跡公園	一ノ宮 884-1	国史跡指定 1971 S46.5.27 開園 2001 H13.4.1	44	指定面積 136,331.8	国史跡
ウ2	寺地遺跡公園	寺地 2035	国史跡指定 1980 S55.12.5 開園 1988 S63		指定面積 2,793.49	国史跡
キ1	小滝川硬玉産地	小滝字川向	国天然記念物指定 1956 S31.6.29	5	指定面積 5,149.1	国天然記念物
キ2	青海川の硬玉産地	橋立 6565 ほか	国天然記念物指定 1957 S32.2.22		指定面積 28,220	国天然記念物
ク	おくのほそ道の風景地 親しらず	市振字入道ほか	国名勝指定 2014 H26.3.18		6,842	国名勝
ケ	フォッサマグナパーク	根小屋 2482-1 ほか	国天然記念物指定 2021 R3.3.26 設置 1990年	23	3,450	国天然記念物

2 現状と課題

(1) これまでの施設整備規模、配置状況

① 設置経過

ア フォッサマグナミュージアム

旧糸魚川市では、地域固有の自然資源や歴史・文化資源を活用した「まちづくり」を進めようと、昭和 61 年度から調査を開始し、昭和 62 年にフォッサマグナと地域開発構想、平成元年に博物館構想、平成 2 年に神話と越の国奴奈川の郷づくり基本構想を策定し、平成 4 年に建築工事に着手した。整備は、ふるさと創生事業（各自治体 1 億円）の一環として、また自治省の地域づくり推進事業の指定や新潟県の広域観光づくり事業の補助を受けて実施し、平成 6 年 4 月 25 日に開館した。平成 26 年度には、常設展示のリニューアル工事と研修室の増築を実施し、平成 27 年 3 月 7 日に再開館した。

展示内容が似通っていた青海自然史博物館は平成 26 年 3 月末をもって閉館し、展示物等をフォッサマグナミュージアムへ移動・移管した。

令和 6 年度に開館 30 周年を迎える。

イ/ウ 1 長者ヶ原考古館／長者ヶ原遺跡公園

昭和 35 年 3 月に県の史跡、昭和 46 年 5 月に国の史跡に指定され、その後、美山丘陵地の開発に伴う野球場建設予定地の発掘調査により、さらに広い区域を保護する必要が生じ、60 年に追加指定された。それまでの大量の出土品は、他の市内遺跡の出土品とともに歴史民俗資料館地下収蔵庫や小学校の空き教室等を活用し、分散して保管してきた。

考古館はこれら出土品を包括的に収蔵展示する施設として整備し、平成 6 年にオープンした。さらに考古館に遺跡のガイダンス施設を兼ねた展示棟と埋蔵文化財センターを増築整備し、平成 13 年 4 月には遺跡公園とリニューアルした考古館を併せて公開した。令和 6 年度に、フォッサマグナミュージアムと同様に開館 30 周年を迎える。

ウ 2 寺地遺跡公園

ヒスイの玉を各地に供給した集落跡であり、木柱を伴う石敷など特殊な遺構の発見から、昭和 47 年 3 月に県の史跡、昭和 55 年に国の史跡に指定された。

本格的な調査は昭和 40 年代に都市計画事業である青海通り線の整備と宅地造成などに伴って行われた。その後、土地の公有化と保存整備がなされ、62 年度に開園している。

エ/オ 1 史跡相馬御風宅／糸魚川歴史民俗資料館

相馬御風が昭和 25 年に逝去すると、糸魚川町民はすぐに顕彰に立ち上がり、その業績と財産を後世に残そうと県内外から 280 万円の寄付金が寄せられ、町は県補助金を合わせ、相馬家の土地と建物、資料 1 万 1 千点を買収した。また、昭和 27 年に県は御風宅を史跡指定し、市は昭和 30 年から相馬御風宅を管理し「御風記念館」として資料展示を行い、観光客や研究者などの参観に供してきた。しかし、資料の盗難や火災を危惧する声が次第に高まるなか、折しも糸魚川高等学校が一の宮から平牛に移転しており、その跡地を利用する形で糸魚川歴史民俗資料館が計画された。これも 1,388 万円の浄財が集まり、御風の資料を中心に市内で発掘されてきた埋蔵文化財、また歴史・民俗資料を収蔵し展示できる施設として、昭和 52 年 5 月に完工、翌月オープンした。

なお、令和 5 年度に相馬御風生誕 140 年を迎え、各種企画展を実施するとともに必要な修繕を行ったところである。

オ 2 能生歴史民俗資料館

生活様式の急激な近代化によって、伝統的な建物や民具が失われつつあったことから、これらの保護を目的として雪国の農家独特の中門造りである中野口の民家を移築して、昭和 55 年にオープンした。その後、入館者数の減少によって、令和元年度から休館期に入ったところ、令和 4 年度は経年劣化と大雨の影響で、屋根の雨漏りが進み、茅葺屋根をカバーコートする形でトタン屋根を施している。

カ 塩の道 白池・大野・山口 トイレ・休憩棟

平成4年度から11年度まで8年間に渡って、文化庁の「歴史の道」保存整備事業として旧松本街道（塩の道）沿道の遺構の復元や、便所、休憩棟などの整備を行うなど、史跡の適正管理及び歩行者の安全性の確保に努めてきた。平成14年3月に「松本街道」として大野～仁王堂（約1.5km）・山口～白池（約3.5km）の区間が国の史跡に指定された。

キ1 小滝川硬玉産地

ヒスイ原石の盗掘や無許可採掘が横行した時代があったものの、昭和29年2月に天然記念物として県指定、昭和31年6月に国指定を受け保護されてきた。以来、市は解説板や標柱等を設置して保護に努めていたが、平成3年に右岸側で大規模な地滑りが発生した。これを受けて平成4年から5年にかけて、国と県によって復旧崩落対策工事が実施され、来訪者の利便にも配慮した学習護岸等の施設が整備された。

平成24年度には保存管理計画、25年度には保存整備計画を策定し、これに基づいて監視カメラ及び解説板の設置と、原石の展示等を行っている。

キ2 青海川の硬玉産地

昭和32年2月に国の天然記念物に指定され、保護されてきた。

旧町及び市は、平成5年の整備基本構想、24年の環境整備構想、27年の保存整備計画に基づき、案内看板、注意喚起看板など各種サイン、遊歩道や柵等の設置、広場や四阿等便益施設、監視カメラ等を設置して保存に努めてきた。

なお、原石の盗掘が相次いだことから、平成11年、下流部の102トンの岩塊を親不知の翡翠ふるさと館へ、同12年、上流部の45トンの岩塊を青海総合文化会館の前庭に移設した。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

古くは「神原（寒原・蒲原）」「神濟」と文献に記され、天険として知られていたが、松尾芭蕉が元禄2（1689）年7月に同地を通過、市振に宿泊し、『おくのほそ道』に記したことから、より広く知られる存在となった。名勝として、昭和49年3月30日県指定、平成26年3月18日国指定となった。国指定後、平成29年から令和2年までに法面や転落防止柵等を整備した。

ケ フォッサマグナパーク

旧糸魚川市において、観光文化都市を標榜する中で「フォッサマグナ」をキーワードに設定し、糸魚川ー静岡構造線を目視できる場所を求めた。

平成元年に最も存在が確実と思われた現在地を調査したところ、断層が確認でき

たことから整備を進め、平成2年にフォッサマグナパークを開園した。

平成8年にはパーク内の「根知の糸魚川ー静岡構造線露頭」「根知の枕状溶岩」の2件を市天然記念物に指定している。

また、平成29年度にフォッサマグナパークの再整備として、断層露頭のリニューアル工事を行い、令和3年3月には糸魚川ー静岡構造線が国指定天然記念物に指定された。

② 整備規模

フォッサマグナミュージアムについては、市民利用のほか、市外利用を中心と考えていることから、類似博物館の規模を参考とした。年間85,000人の入館者を想定している。

このほか、糸魚川歴史民俗資料館は、延べ床面積が651㎡で、資料館としては平均的な規模である。

その他の文化財や公園等は、整備規模を設定していない。

③ 配置状況

当該施設群は、建設に特殊な経過を辿っているものであり、それぞれ適切な場所に配置している。

ア フォッサマグナミュージアム

市内では唯一の自然科学系の「博物館類似施設」である。

イ/ウ 長者ヶ原考古館／長者ヶ原遺跡公園・寺地遺跡公園

考古館は市内遺跡全般のガイダンス施設であり、能生・青海地域に類似施設はない。

2つの遺跡公園はいずれも国指定史跡を保存・活用する公園で、能生地域には類似公園がない。

エ/オ1 史跡相馬御風宅／糸魚川歴史民俗資料館

御風宅は歴史的偉人の旧居という特殊性から、青海・能生地域に類似施設はない。

糸魚川歴史民俗資料館は御風や木村秋雨に関する資料が収蔵展示品の9割以上を占め、実質的には文学資料館である。

オ2 能生歴史民俗資料館

中門造の民家として公開している公共施設はほかにない。このほか民具を展示している施設としては、糸魚川地域では木地屋の里民俗資料館（国指定文化財の一部展示）、塩の道資料館（国指定文化財の一部展示）があるほか、能生地域にはマリミュージアム海洋があり、それぞれ特色ある資料を収蔵・展示している。青海地域

に類似施設はない。

カ 塩の道 白池・大野・山口 トイレ・休憩棟

国指定史跡である松本街道（東回り塩の道）の便益施設であり、西回り塩の道（須沢～今井～小滝）に関しては同様の施設はない。

キ 小滝川硬玉産地、青海川の硬玉産地

両者ともにヒスイ原石を産出する国指定天然記念物であり、地域が限定される。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

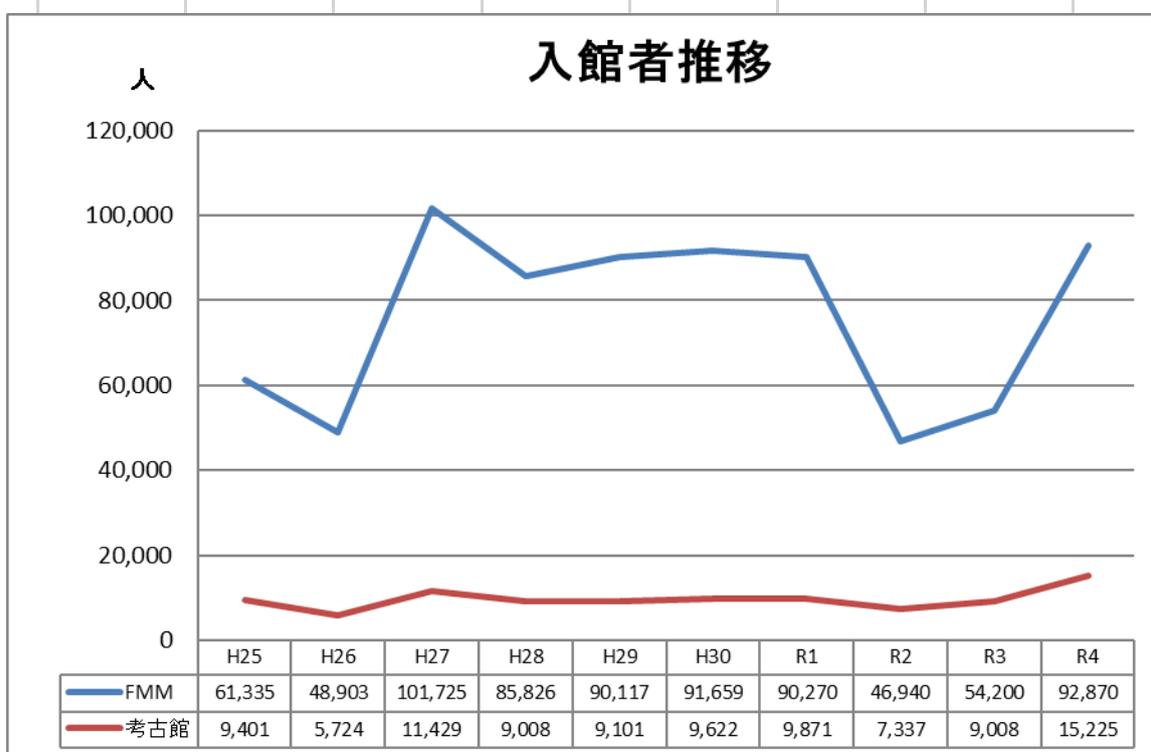
市内では各地域に芭蕉ゆかりのポイント（能生：玉や五良兵衛 糸魚川：早川、荒ヤ町 左五左衛門 青海：市振、玉木村、境川）はあるが、名勝指定は本件のみである。

ケ フォッサマグナパーク

「糸魚川－静岡構造線」は、幅10m以上の断層破碎帯として露出するもので、市内に類似施設はなく市内唯一の施設である。

(2) 主な利用状況

ア フォッサマグナミュージアム / イ 長者ヶ原考古館

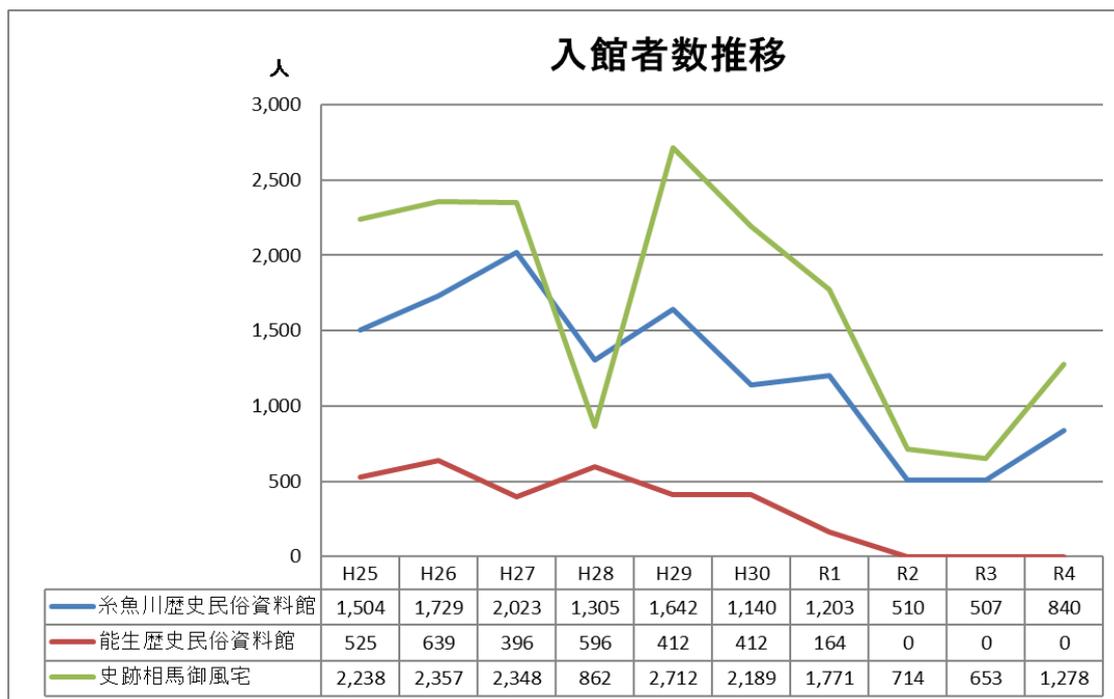


・フォッサマグナミュージアムは、リニューアルまでの10年間の年間入館者数は、概ね50,000人前後で推移し、北陸新幹線開業にあわせて行った平成27年3月のリニューアルオープン以降は、入館者が大きく伸びた。しかし、令和2年からの新型コロナの影響により、2年度、3年度は入館者数が半減したが、4年度はコロナ禍前の入館者数に回復した。

リニューアル後の平成27年度から令和4年度までの8年間の利用者数は、概ね90,000人である。

- ・長者ヶ原考古館は、フォッサマグナミュージアムとの共通入館券の導入により、1万人前後で推移している。

エ 史跡相馬御風宅 / オ 糸魚川歴史民俗資料館・能生歴史民俗資料館



- ・ 史跡相馬御風宅は修繕工事による休館があった平成 28 年度と令和元年度及び 2 年度及び 3 年度の新型コロナの影響以外は、年間入館者が概ね 2,000 人前後で推移している。
- ・ 糸魚川歴史民俗資料館は、年間入館者が概ね 1,200 人前後で推移し、やや減少傾向にある。
- ・ 能生歴史民俗資料館は、令和元年度以降は長期休館としている。

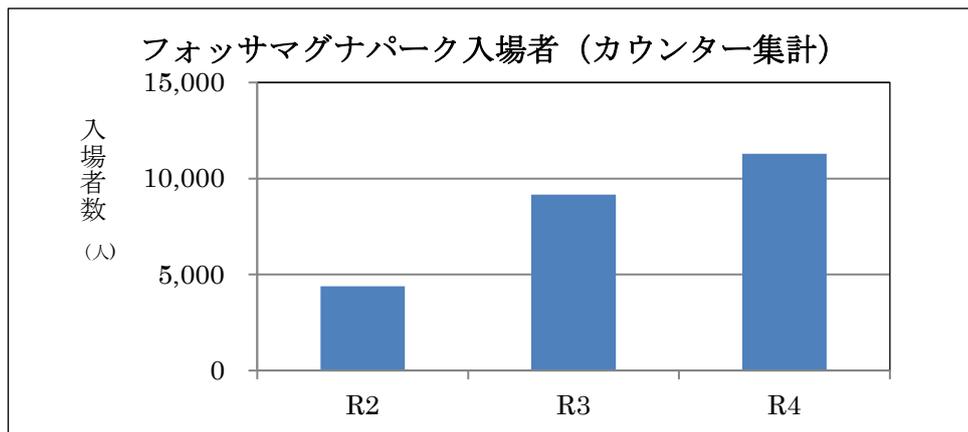
キ 1 小滝川硬玉産地

6 月上旬～11 月上旬の土日祝日の来訪者のみのカウント 単位：人

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
5,288	4,422	5,443	4,181	4,362	3,846	5,400	5,534	5,208	5,611

- ・ 天候による影響が大きいですが、概ね 5,000 人前後で推移している。

ケ フォッサマグナパーク



(参考)

※入場者カウンターは、国道 148 号側遊歩道入口に設置している。

なお、農村公園側は設置していない。

※入場者数=カウンター数÷2

※開園期間 4月中旬から11月末まで

(3) 課題

ア フォッサマグナミュージアム

糸魚川ユネスコ世界ジオパークの中核施設としての役割を担う施設である。平成 28 年 9 月に、日本鉱物科学会によりヒスイが国石に選定、令和 4 年 11 月には新潟県の石に指定されたことを機に、常設展を生かした教育普及活動、広報活動により安定した来館者数を確保し、交流人口の拡大、関係人口の獲得に貢献し続けることが大きな課題であると認識している。

また、研究機能の強化として大学等との連携強化と、貴重な資料の保存と活用のため収蔵能力の拡大と収蔵環境整備と、加えて施設と機能の維持のため定期的なリニューアルが課題となっている。

なお、喫緊の課題として、屋上の劣化対策が必要な時期になっている。

イ/ウ 1 長者ヶ原考古館／長者ヶ原遺跡公園

国石ヒスイの周知を進めるため、ヒスイ文化に関わる展示・解説の充実が必要である。

開発等に伴う発掘調査の出土品等により、収蔵スペースの確保が困難になっており、特に低湿地出土の木製品などの収蔵場所の確保が課題である。

なお、長者ヶ原考古館は令和 6 年度に開館 30 周年を迎えるなど、今後を見据えた大規模修繕やリニューアルについて、さらに長者ヶ原遺跡公園は全体的な劣化が進んでおり、再整備の検討を開始する時期であると捉えている。

ウ 2 寺地遺跡公園

復元建物等の主要部は木製等であることから、劣化状況の確認、適切な修繕等を随時要する。

住宅や鉄道敷地に隣接することから、公園内の草刈り、垣根や高木の剪定などの公園用の管理を要する。

エ 史跡相馬御風宅

平成 28 年度に耐震、耐火、復原工事を行ったことから、今後は活用に重点を置く。なお、近年の異常気象（猛暑）を考えると、大型空調設備の設置が課題と言えるが、相馬御風宅は県の指定文化財であるため、現状の設備規格では早期の設置が叶わない。

このことから、当面は夏季開館時間の変更をはじめとする安全管理の工夫を強化することとする。いずれにしても来館者及び管理受託者の安全や体調管理を優先する検討を開始する必要がある。

オ 1 糸魚川歴史民俗資料館

築 50 年が近付いており、ハード面で根本的な課題が出始めている。

主な課題は、収蔵スペース不足と設備老朽化で、言い換えると現代に求められている機能を備えていない資料館になりつつある状態ということである。

また、市全体の課題として、古文書等を扱うことができる人材不足が、高齢化とともに急進している。資料館の合理的機能と相馬御風生誕 150 年を考えたとき、市独自の歴史学芸員配置も大きなポイントと言え、施設整備とともに早期に対策を開始する必要がある。

なお、大規模改修や再整備を計画する際に調整すべき事項があり、令和 5 年度時点で考えられるものを以下のとおり記載する。

① 当該施設の性質

展示と収蔵の両方が必要な歴史文学資料施設であり、展示だけでは成り立ち得ない施設であること。

また、研究者から随時問合わせがあるため、文化振興課と常時連携できる体制が必要であること。

② 燻蒸を必要とする施設

古文書などを多数保管しているため、燻蒸が必要である。

燻蒸は大量の薬剤を使用するため、立地位置は十分に注意する必要があること。

オ 2 能生歴史民俗資料館

令和元年度から休館しており、利用のあり方が第一の課題となっている。

建物は旧農家の造りだが、現状は漁師や商家の道具類も混在して収蔵されており、テーマの統一性に欠けている。

また、白山神社との隣接関係から旅行客やサイクリストの立ち寄りが多く、白山神社の背景として普段の管理が課題となっている。

カ 塩の道 白池・大野・山口 トイレ・休憩棟

いずれも積雪や凍結による被害が頻繁に発生している。

キ 1 小滝川硬玉産地

保存整備計画に基づき監視カメラ等の整備を実施しているが、国石選定によりヒスイが注目を浴びており、盗難や採取に対して今まで以上に対策を講じる必要がある。

地すべり地形であり、河床の変動の定期的観測やフトンカゴ護岸下部の洗掘部分の保護が将来的に必要である。

※その他、平成 24 年度策定「小滝川硬玉産地保存管理計画」、平成 25 年度策定「小滝川硬玉産地保存整備計画」参照。

キ 2 青海川の硬玉産地

指定地周辺は「橋立地すべり防止区域」で小規模な変動があるほか、急斜面の崩壊が所々で発生しており、土砂の流出も多い。

ヒスイの国石選定により、盗難や採取に対して今まで以上に対策を講じる必要がある。

指定地外に存在する硬玉原石も本天然記念物の本質的価値を有することから、保護と保存に配慮するとともに、必要に応じて指定地の追加指定も検討する必要がある。

上流指定地へのアクセスは悪路となっている。

※その他、「青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊保存管理計画」付録「現状と課題」一覧参照。

これらを踏まえ、令和 5 年度に青海川の硬玉産地整備基本計画を策定し、令和 7 年度から整備開始できるよう調整することが課題となっている。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

芭蕉が見たであろう景観を有する第一世代の道である汀が浸食されている。

日本海の沿岸特有の強風、塩害の影響を受けやすく、各種便益施設に経年劣化が認められる。

国指定以降、施設の整備・修繕を行っているが、令和 5 年度に落石による通行規制があるなど、岩石の性質を理解しつつ、関係機関と情報共有しながら管理している。

※その他、平成 28 年度策定「保存活用計画」「整備基本計画」記載の現状と課題を参照。

ケ フォッサマグナパーク

施設利用者が安全にまた、見学しやすいよう日常点検のほか、施設の修繕など計画的に維持管理を行う必要がある。

また、今後においては、枕状溶岩の国指定天然記念物の指定を目指す。

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

いずれの施設も、条例上の設置目的は市民の教育、学術及び文化の発展、醸成等であるが、扱う資源が当市独自のものであることから、対外的な市の知名度向上、交流人口の拡大等に貢献してきたところである。これは指定文化財の便益施設も同様である。

糸魚川ユネスコ世界ジオパークの拠点施設や、指定文化財とその便益施設については、文化財（史跡・名勝・天然記念物）という特性から集約化、複合化、機能移転、統合はできないものとする。このため、施設ごとにマネジメントによる効率的・効果的な管理を行う必要がある。

糸魚川歴史民俗資料館は、糸魚川市文化財保存活用地域計画の策定とともに、将来の民俗文化を総合的に扱うセンターポジション化の傾向が出ている。

さらに、各施設の有効利用を考えたとき、博物館特有の課題として収蔵庫の増設が必要と分析している。

(2) まちづくりとの関係

これまで、まちづくりについては直接的な関係が薄いであろうと考えられてきた。そのような中、糸魚川市文化財保存活用地域計画で地域総ぐるみによる、教育・地域づくりにおいて活用する考え方を導入したことから、計画の実践として、郷土の歴史と文化、独自資源に対する市民の関心を高め、地域への愛着を育むための拠点施設としての役割を得たところである。

(3) 利用者の動向

ア フォッサマグナミュージアム

平成 27 年 3 月のリニューアル及び北陸新幹線開業等により利用者は増加傾向にある。さらに、ヒスイの国石選定、県の石指定を受け、今後も一層利用者が増加することが見込まれる。

イ/ウ 1 長者ヶ原考古館／長者ヶ原遺跡公園

フォッサマグナミュージアムと同一エリアにあり、利用者の動向も同じ傾向にある。また、長者ヶ原遺跡公園はコロナ禍の影響もあって団体の利用は減ったが、個人での利用が増加傾向にある。

ウ 2 寺地遺跡公園

地域巡見や目的を持った来園という利用が予想されるが、人口減少とともに利用者は減少するものと推測する。

エ/オ 1 史跡相馬御風宅／糸魚川歴史民俗資料館

御風宅は 11 時から 13 時台の来館が多く、周辺施設の利用と合わせた来館が一定数あると推測できる。

糸魚川歴史民俗資料館は、収蔵展示資料が専門的で、若年層の利用が少ない傾向にあり、全体的に利用は低調である。来館者の入館時間を踏まえて、開館時間の変更も視野に入れた施設のあり方を検討していく必要がある。

オ 2 能生歴史民俗資料館

令和 6 年度以降のあり方として、小学校から高校生までの学習利用を見込んでいる。そのほか、必要に応じてイベント的な見学利用を予定しているが、双方とも大きな利用が見込めるものではない。

一方で、白山神社の背景としての前庭開放は、見晴らしの良さがあってある程度の利用があると考えられる。

カ 塩の道 白池・大野・山口 トイレ・休憩棟

自然体験、健康志向、古道への興味は高まっているようだが、これら便益施設の利用者は過去のブーム以上の人数は見込めない。

キ 1 小滝川硬玉産地

来訪者は、近年では平成 23 年をピークに減少傾向にあるが、ヒスイの国石選定と県の石指定とを関連づけて PR することで、より多くの来訪が期待できる。

キ 2 青海川の硬玉産地

ヒスイ原石を見学できる上流部は、ゲートの存在と急峻な進入路のため、一般のアクセスは難しく、ジオパークガイドや学芸員などの同伴による利用を主としている。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

芭蕉関連の観光名所であり、もともとの根強い人気に加え、旧親不知トンネルを歩くことができるという新しい魅力を加えたことにより、若年層など「おくのほそ道」への関心が低い層の来訪が感じられる。

ケ フォッサマグナパーク

フォッサマグナパークは、平成 30 年の断層露頭展示リニューアルと令和 3 年の

国天然記念物指定、さらに令和3年テレビ放送番組の効果により利用者が年々増加している。

また、フォッサマグナミュージアムとの相乗効果で今後も利用者増加が期待できる。

4 整備方針

(1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

文化財の特徴から、特段規模や配置の標準規模はないが、整備時の状況及び財政状況を加味しており、現状で展示部門は適正規模、適正配置といえる。

ただし、収蔵機能が不足している。さらに現状の収蔵機能が分散しており、合理的な配置による不足と分散の解消が望まれる。

記念物（史跡、天然記念物、名勝）の公開、利用のための施設は、記念物の指定範囲が拡大することにより、適正とされる現状以上の規模が求められる可能性をもっている。（例えば、遺跡付近の指定地外から非常に重要な遺物や痕跡が発見される場合など。）

(2) 整備に関する基本的考え方

ア フォッサマグナミュージアム / イ 長者ヶ原考古館

糸魚川ユネスコ世界ジオパークの中核施設としての役割を担うべく、収集・保管機能の強化や新しい技術を用いた常設展示のリニューアルを計画的に進めるとともに、教育普及、大学等との研究連携を推進していく。

また、建物の屋上、内外装及び設備の大規模修繕並びに屋外の案内サインのリノベーションを計画的に進める。

ウ 遺跡公園

復元建物や露出展示施設などは概ね20年ごとの更新が必要であるが、状況に応じた対応を検討する。

エ 史跡相馬御風宅

御風宅の県文化財の指定分野は「史跡」ではあるが、建物部分も史跡の構成要素である。90年が経過するなかで、建造物としても文化財としての価値を有しはじめてきた。平成28年度に耐震、耐火、復原工事を行った。当面、大規模整備は不要であり、今後は活用に重点を置く。ただし、猛暑等に対応する必要な安全対策を講じていく。

オ1 糸魚川歴史民俗資料館

築50年となる2027年を一つの区切りとして、リニューアル・リノベーションを検討する。なお、検討に当たっては、糸魚川市民図書館の整備方針と立地的に関連

することから、まず動向を確認するとともに、民俗資料全体の館を意識した施設として検討していく。それまでの間は、増え続ける収蔵資料の保管場所について、他施設の利用を考慮する。

オ 2 能生歴史民俗資料館

現状、資料館としての存続が困難であることから、当面は中門造り家屋の学習・見学施設として活用する。

なお、現在収蔵している民具等は農具・漁具・商具が混在していて要不要の整理が必要なことから、井陵倉庫に移動して選別する。

カ 塩の道 白池・大野・山口 トイレ・休憩棟

経年による老朽化等に都度対応、修繕を行う。

キ 1 小滝川硬玉産地

今後の整備も、平成 24 年度策定「小滝川硬玉産地保存管理計画」、平成 25 年度策定「小滝川硬玉産地保存整備計画」に基づき行うこととする。

【保存管理の基本方針】

- ・硬玉（ヒスイ）産地としての価値を損なわない。
- ・指定地外においても本質的価値を尊重する。
- ・周辺環境（地形や地質、動植物等）を含めて一体的に保全する。
- ・学習や観光の拠点として活用を図る（周辺の観光拠点との連携）。

【整備・公開の基本方針】

- ・指定地の毀損や滅失を防ぐため、護岸の整備や補修を行う。
- ・来訪者がヒスイを間近で見学できるというロケーションの価値を最大限に活用するとともに現地での安全に配慮する。ただし、盗掘や採取への対策措置に努める。
- ・整備計画では将来整備目標として、両岸の遊歩道、河川横断用飛び石、鉄橋、左岸側広場、親水空間、大型バス用駐車場、護岸保護を挙げている。

キ 2 青海川の硬玉産地

平成 23 年度策定「青海川の硬玉産地環境整備基本構想」、26 年度策定「青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊保存管理計画」に基づき、令和 5 年度末に整備基本計画を策定する予定である。

※「保存管理計画」巻末付録の「整備基本構想」「サイン整備構想」参照。

【保存管理の基本方針】

- ・硬玉（ヒスイ）産地としての価値を損なわない。
- ・指定地外においても本質的価値を尊重する。
- ・周辺環境（地形や地質、動植物等）を含めて一体的に保全する。
- ・学習や観光の拠点として活用を図る（周辺の観光拠点との連携）。

【整備基本計画の基本方針】

- ・「学ぶ」「体験する」ことを主とする教育活用を図る。
- ・上流部を重点的に整備する。
- ・エリア外も含めて、盗掘や採取の対策措置に努める。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

平成 28 年度策定「保存活用計画」、29 年度策定「整備基本計画」に基づき整備を行う。※「整備基本計画」の整備方針を参照。

【整備方針】

- ・整備項目を短期と中長期計画に区分し、利用者の安全性・利便性を確保すべきものや実現可能なものを短期、実施に向けて経過観察を行う必要があるものや関係機関協議を要するものなど準備を整えていくべきものを中長期計画で行うこととしている。

ケ フォッサマグナパーク

フォッサマグナパークは、当市の特徴であるフォッサマグナを示す独自性を持った施設であり、適正規模、適正配置の概念は当てはまらず、日本の貴重な資源として保存、活用を図っていく必要がある。

しかしながら、断層露頭は破砕帯であることから崩土の発生はやむを得ないものであり、この点を踏まえて思い切った発想で施設全体を改良することも視野に入れた対策を講ずるものとする。

また、枕状溶岩については、国指定天然記念物の指定を目指し、整備のあり方について検討するものとする。

5 収蔵機能について

各施設における収蔵機能の不足は、今後、顕在化する非常に大きな課題であり、展示・研究・収蔵が機能不全となる前に、合理的で適切な収蔵のあり方を検討開始する必要がある。

本件は従前から近い将来の課題とされ、話題としてきたが、施設の老朽化と現在の機能不足の進行度を考え、できるだけ早い時期に検討を開始する。

6 対策の優先順位の考え方

原則として、施設点検の結果及び築後経過年数から優先順位を判断するが、公園や天然記念物などの屋外施設については天災等の影響を受けやすいことから、施設利用状況や防災機能などその他情報も考慮し、総合的に判断する。

7 個別施設の状態等

施設名	劣化の状況					特記事項等
	屋上 屋根	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	
フォッサマグナミュージアム	C	C	B	A	A	外壁（特にショップ・ 女子トイレ棟の亀裂） ※H19年度増築
長者ヶ原考古館	A	B	B	B	B	
史跡相馬御風宅	B	B	B	B	B	
糸魚川歴史民俗資料館	B	B	C	C	C	
能生歴史民俗資料館	A	C	C	C	C	

（A概ね良好 B部分的に劣化 C広範囲に劣化 D広範囲に著しい劣化）

8 その他

第3次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

博物館施設の充実と活動の推進

- ・フォッサマグナミュージアムや長者ヶ原考古館において、糸魚川の貴重な自然・文化資源や資料を研究・収蔵し、その成果を展示・教育活動を通じてわかりやすく発信します。
- ・フォッサマグナパークの断層露頭の保全と枕状溶岩の野外展示の改良を行い、周辺の自然・文化資源との回遊性を考慮した保全と整備を進めます。

文化財の保存と活用

- ・市民、事業所、行政がそれぞれの役割を担い、協働により文化財を守り、活用し、伝える体制を築くとともに、歴史・文化による魅力ある地域づくりを行うため、糸魚川市の文化財の総合的指針となる文化財保存活用地域計画を策定します。

文化財の適正収蔵と公開の強化

- ・文化財を適正に保存・活用するため、展示や管理運営方法を見直し、既存施設の有効活用等による施設整備を図るとともに、計画的な企画展、特別展、巡回展の開催などによる指定文化財の積極的な公開と解説の機会増を図ります。

9 令和元年度から令和10年度までの検討計画

・計画期間は、令和元年度から令和10年度までの10年間とする。

単位：千円

スケジュール							
施設／年度	2019～ 2023	2024	2025	2026	2027	2028	
	令和元～ 令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	
フォッサマグナ ミュージアム	展示室換気設備 改修 26,730 館内トイレ抗菌 改修 7,480 館内無線アクセ スポイント改修 2,024	屋上塗膜防水 修繕 48,840	ショップ外壁 修繕 15,000	博物館周辺案 内サイン リノベーション 8,000	大規模修繕 調査・実施設 計 5,000		
長者ヶ原考古館	—	リニューアルや大規模改修の検討を行う。					
糸魚川歴史民俗 資料館	—	今後の方針について検討を開始する					
能生歴史民俗資 料館	(休館、資料整理)	—	—	—	—	(取り壊しの 検討)	
長者ヶ原遺跡公園	園路等の改修	—	1号掘立柱建 物再建工事 8,000	11号・16号 竪穴建物葺き 替え 4,000	—	—	
寺地遺跡公園	—	—	—	保存活用計画 策定 1,000	—	遺跡調査 3,000	
塩の道関連施設	—	—	松本街道保存 活用計画策定 1,000 山口番所土地 公有化 2,000	—	松本街道関連 看板整備 2,000	山口番所跡整 備 2,000	
史跡相馬御風宅	雁木修繕工事 2,700	—	—	—	—	—	
小滝川硬玉産地	—	—	—	—	—	—	
青海川硬玉産地	—	—	R6年3月策定予定の整備基本計画に基づき 整備工事を開始する。				
名勝親しらず	—	—	—	—	—	—	
フォッサマグナ パーク	モニュメント設 置 1,600	国道側駐車場 増設 16,200	—	—	断層露頭修繕 及び枕状溶岩 改良調査・実 施設計 10,000	断層露頭修繕 50,000 枕状溶岩改良 50,000 施工管理 5,000	
計	40,534	65,040	26,000	13,000	17,000	110,000	

※上記の計画は、令和5年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料である。

第2 博物館等（越山丸、マリンミュージアム）

1 施設一覧

(1) 施設総括表（令和5年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
博物館等	2			2			

(2) 施設の詳細（令和5年4月1日現在）

施設名称	代表所在地	建築年 (経過年数)	延床面積 m ²	構造	階層
海の資料館越山丸	能生小泊 3596-10	1980 S55 竣工(43年)、 1996 H8 設置 (27年)	414.96	鋼船	地上4 地下2
マリンミュージアム海洋	能生小泊 3596-4	1998 H10(25年)	453.75	木造	地上2

2 現状と課題

(1) これまでの施設整備規模、配置状況

① 設置経過

ア 海の資料館「越山丸」

平成6年度で廃船となった新潟県立海洋高等学校（旧能生水産高等学校）の実習船・越山丸（昭和55年8月竣工）を旧能生町が譲り受け、能生海洋公園内に陸揚げし、改装後、資料館として平成8年から展示している。

平成13年度及び18年度に外部全塗装を実施したほか、平成25年度にデッキ改修工事、平成29年に外部塗装とデッキ及び船内の改修工事を実施している。

イ マリンミュージアム「海洋」

平成10年に県立海洋高校の100周年を記念し、学校関係者及び旧能生町により海洋公園内の越山丸に近接した場所に資料館を建設したものである。

なお、能生海洋公園と道の駅マリンドリームは、北陸自動車道整備に伴う残土活用事業として整備された経過から、両施設は道の駅の運営主体である株式会社能生町観光物産センターが指定管理者として管理している。

② 整備規模

ア 海の資料館「越山丸」

漁業実習船として利用されていた越山丸をそのまま展示することにより、貴重な資料としての越山丸に触れてもらうことを目的としており、整備規模の設定はない。

- ・鋼船1隻 長さ49.90m、幅8.40m、深さ3.75m、総トン数437.41t
平成8年度越山丸設置工事34,806千円、船内外演出展示工事29,685千円、総額64,491千円。

イ マリンミュージアム「海洋」

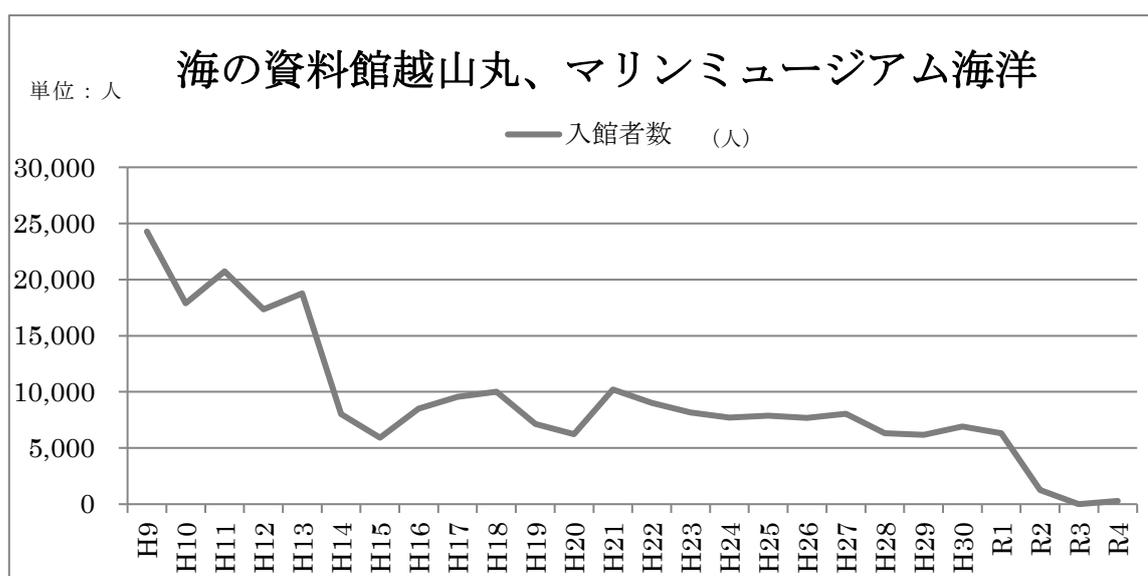
マリンドリーム能生2階に展示されていた、北前船模型資料と海洋高校の所有資料、能生地域の漁業資料の展示に併せて、能生地域で行われている「奴奈川大ウスまつり」で使用する大ウスを収納、展示することを目的とした施設規模である。

- ・木造2階建(建築面積302.72㎡、延床面積453.75㎡)
平成10年度建築工事60,900千円、電気設備工事6,640千円、うす檣台車製作工事2,460千円、資料館展示工事27,000千円、キャプテンハウス建築工事30,900千円(平成8年度建設)、総額127,900千円。

③ 配置状況

能生地域の漁業の歴史をアピールする市内唯一の施設として、能生海洋公園内に配置している。

(2) 利用状況



平成9年度の開設当初から平成13年度まで、2万人前後の入館者で推移し、順調であったが、その後入館者は減少傾向である。

(3) 課題

越山丸は、鋼船のため老朽化が激しく、安全面と費用面から考えると館内見学は出来ない。今後の大規模改修は難しく、展示のみとなっている。

マリンミュージアム海洋は、海洋高校の歴史的な資料が展示されている施設のため、今後の方向性については、海洋高校や同窓会組織との調整が必要となる。

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

海洋高校や、能生地域の漁業の歴史を伝える資料の展示施設となっているが、現状は利用が減少して効果が薄れている。

しかし、展示物は海洋高校や地域の貴重な財産であるため、海洋高校や同窓会組織等と協議しながら、展示方法の見直しや必要最小限の修繕を行い、将来的に当該施設がどうあるべきか関係者と協議する必要がある。

(2) まちづくりとの関係

能生水産高校から海洋高校に至る歴史的資料と奴奈川大ウスまつりで使用されている日本一の大ウスを展示しており、マリンドリーム能生全体が能生地域のシンボリックな施設となっており、その区域に当該施設がある。

(3) 利用者の動向

平成 14 年頃から利用者が減り、平成 28 年度は、さらに減少傾向が見られた。

このことから平成 29 年度に越山丸の外部塗装修繕を行い、指定管理者と海洋高校との連携企画として、マリンミュージアム海洋を利用した出前水族館「まなびリウム」が夏休み期間に開催され、入館者数は若干の回復の兆し傾向があった。

しかし、令和 2 年度末に越山丸のスロープが破損、加えて越山丸内部の錆びが酷く、床や階段が抜ける恐れがある箇所が多数確認され、封鎖となった。

マリンミュージアム海洋は越山丸の見学とセットでの利用が多いため、越山丸の見学ができなくなったことで、利用者数が減少している。

4 整備方針

(1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

能生地域が漁業の町としての歴史をアピールする市内唯一の施設として、現状の規模及び配置は、最適である。

(2) 整備に関する基本的考え方

両施設とも能生地域のシンボリックな施設である道の駅マリンドリーム能生の一角にあることから、全体として効果を果たすよう設置されているが、その一方で安全対策、費用対効果の面から、根本的な大規模改修は難しい。

加えて、現在進められているマリンドリーム能生周辺整備計画の中で、あり方を検討していることから、その結果が出るまでの間は必要最小限の維持管理を行う。

5 対策の優先順位の考え方

原則として、施設点検の結果及び築後経過年数から優先順位を判断するが、海岸に設置しているため施設の錆びが酷い。特に越山丸は、抜本的な大規模修繕を行わない限り来場者の安全性が担保されないことから、内部見学は当面中止する。

天災等の影響を受けやすいことから、施設利用状況などその他情報も考慮し、総合的に判断する。

6 個別施設の状態等

施設名	劣化の状況					特記事項等
	屋上 屋根	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	
海の資料館「越山丸」	B	C	D	C	C	
マリンドリーム能生	B	B	B	B	B	

(A概ね良好 B部分的に劣化 C広範囲に劣化 D広範囲に著しい劣化)

7 令和元年度から令和10年度までの検討計画

単位：千円

スケジュール		
内容	R1～R5	R6～R10
海の資料館「越山丸」		「マリンドリーム能生周辺整備計画」を踏まえて、今後のあり方を検討する
マリンドリーム能生		